

現代文ノートの作り方 2012

ノートは芸術作品ではない。綺麗に書くことを目的としている人が中にはいる。しかし、ノートは学力向上のためにあるのだと、記憶できること記録するのである。記憶を長続きさせる（＝身体化する）ために、ノートには記憶できないことを記録するのである。

皆さんの授業中での活動を観察していると、「どうして授業中あんなに活発に議論しているのに、どうしてそれが定着していないんだろう？」などと気づくことがあります。

一人で黙々と考え、いい線までいつているのに、単純なことに気づかなかったために袋小路に陥つて、周囲からちよつとした指摘でその袋小路から抜け出せる。すばらしい発想があるのに、後押しがないため自信が無くその意見を表明できない。なんて人もいます。

授業中にわかつていいことが、授業が終わるとすっかり忘れてしまうのは、そのまままで終わっていて、身についていない（＝身体化していない）からです。身体化するためには、情報を得たときの思いつき、つぶやき、ひらめき、感情などとも一緒に記録（文字や絵や図によつて）しておくとよいでしょう。

（1）縦書き、横書きは自由とする。（ここでは横書きで説明。）（2）ルーズリーフは不可。（3）見開き2ページで1セット。

それらをうまく解決するためには、現代文では次のようなノートの作り方を行います。そして、定期的にノートを巡回、点検し、周りの人々に見せてもらったり、周りの人のノートを参考にしたりして、情報的の共有化をし、知のレベルを上げていくことを目的とします。

右側（下段）の半分に線を引

③他者書き込みエリア（クラスでノートを巡回し、そのノートの感想、フリーエリアの記述に対する意見、回答・質問に対する教師の回答など、自分の以外の人が書き込む欄である。）

○○○ができるようになる！

単元の目標（新たな単元は、新たなページの最初に書き出す。）

①授業の記録（指示された課題・板書・他者の発言のメモなど、授業記録に関するものを記す）

②フリーエリア（つぶやき・疑問・質問・意見・反論・イラスト・連想したものなどを自由に書く。自己の思考の具現化を行い、知の集積をするきっかけにする。）